

□海外文献紹介□

炎症性腸疾患における腸管外の癌

Extraintestinal cancers in inflammatory bowel disease: *Greenstein AJ, Gennuso R, Sachar DB, et al* (Cancer 56: 2914-2921, 1985)

1,227例の Crohn 病, 734例の潰瘍性大腸炎, 合計1,961例の炎症性腸疾患の患者で腸管外の悪性腫瘍の頻度を調べた。

その結果, 51人の患者で54の腸管外の癌を発見した。うち28例は Crohn 病の患者で, 23例は潰瘍性大腸炎の患者にみられ, 男性25人, 女性26人であった。

癌の臓器別内訳は, 乳癌7例, 皮膚癌7例, 網内系腫瘍15例, 泌尿生殖器系腫瘍11例, 肺癌3例, 肛

門周囲癌3例, 膵ラ氏島腫瘍2例, その他3例などであった。

しかしながら, 腸管外の癌の発見数と期待数の比は, Crohn 病で0.76, 潰瘍性大腸炎で1.32と, 癌全体では有意の増加を認めなかった。一方, 若干の特殊な癌が, 期待値より有意に高い頻度で起こっているように思われた。これらの癌は2つのグループに分けられる。第1のグループは, 網内系腫瘍で, 白血病が潰瘍性大腸炎で, リンパ腫が潰瘍性大腸炎と Crohn 病の両者において高頻度にみられた。

第2のグループでは, 肛門周囲の扁平上皮癌が期待値の30倍多く, また腔の扁平上皮癌も高かった。すべて Crohn 病で起こっていた。リンパ腫, 白血病, 扁平上皮癌が, 免

疫抑制された患者や照射を受けた患者で高頻度に起こることが報告されている。

したがって, 回腸炎や結腸炎の患者でのこれらの新生物の頻度の増加は, 炎症性腸疾患に合併した免疫不全や, ステロイドや免疫抑制剤の長期投与, あるいは検査などでの放射線被曝の蓄積などに関連があるかもしれないと推論されている。

肛門周辺や腔の扁平上皮癌の増加については, Crohn 病の場合, これらの部位での慢性的炎症と, 疾患本来の免疫抑制の両者の併存の結果によるものと考えられている。

(愛知県がんセンター第1内科

小林世美 抄)